資料３－３

平成２４年度三番瀬自然環境調査（案）

1　平成２４年度三番瀬深浅測量業務

（1）目　　的

三番瀬海域の地形の現状を把握し、過去に実施された深浅測量のデータから、地形の侵食、堆積傾向を整理し、地形の変化について調査し、三番瀬の自然環境の変化を把握することを目的とする。

（2）調査方法

ＧＰＳ測位装置及び音響測深機を使用し、側線間隔１００ｍで船上からの測量を行う。

汀線部においては、作業員等による水準測量も併用する。

干出域及び沖側の砂洲周辺については、より正確に形状を把握するため、側線間隔を５０ｍ以下とする。

（3）調査項目

踏査、深浅測量

（4）調査場所

千葉県三番瀬周辺海域（別図参照）

（5）調査期間

平成２５年１月～３月（前回調査時期と同じ）

（6）基準面

荒川工事基準面(Arakawa Peil)

A.P.=T.P.-1.134 (m)

（7）深浅図の作成、整理、確認、解析、考察等

深浅測量を基に深浅図を作成する。また「平成２０年度三番瀬海底変化検討調査報告書」やその他関係資料によりデータを比較し、地形の侵食・沈下、堆積傾向を整理し、地形の変化を取りまとめる。

（8）留意事項

①三番瀬とその周辺の地盤高の変化を解析して洗い出すこと。

②カキ礁の範囲を把握し、測量を行うこと。

③市川航路とその周辺の地盤高の変化についても留意すること。

④前置斜面とその周辺の地盤高について、留意すること。

２　平成２４年度三番瀬鳥類経年調査

（１）目　　的

三番瀬海域及び周辺地域の鳥類の飛来状況を、連続して飛来数を計測することによって、より詳細に把握する。

（２）調査方法

三番瀬及びその周辺地域５箇所を対象として、以下のとおり調査を実施する。

①　ラインセンサス法

調査地点の中に定められた特定ルート上を比較的ゆっくりとした一定の速度で歩き、望遠鏡又は双眼鏡を用いてルートの両側（陸上では片側５０ｍ、干潟～海上では約１．５km～２km）を調査する。

②　定点調査法

調査範囲を広く見渡すことのできる定点から、望遠鏡又は双眼鏡を用いて可視範囲内を調査する。

なお、スズガモについては、正確な個体数を把握するため、１１月から３月までの三番瀬海域３地点（船橋海浜公園、塩浜、日の出）において、同一日、同一時刻に一斉カウントを行う。

③　観察条件の記録

調査日時、干潮・満潮時刻及び潮位、天候、気温、風向、風速の観察条件を記録する。

※　気温、風向、風速は船橋アメダス観測データ。潮位は第三管区海上保安本部芝浦験潮所の潮汐日報をもとにＡ．Ｐ．（荒川工事基準面）とした表示。

④　写真等による記録

調査区域の全容、干潮時における干潟の干出状況、観光客等の人出や船舶等鳥類の生息に影響があると思われる状況、及び、鳥類の生息状況等を写真等により記録する。

（３）調査項目

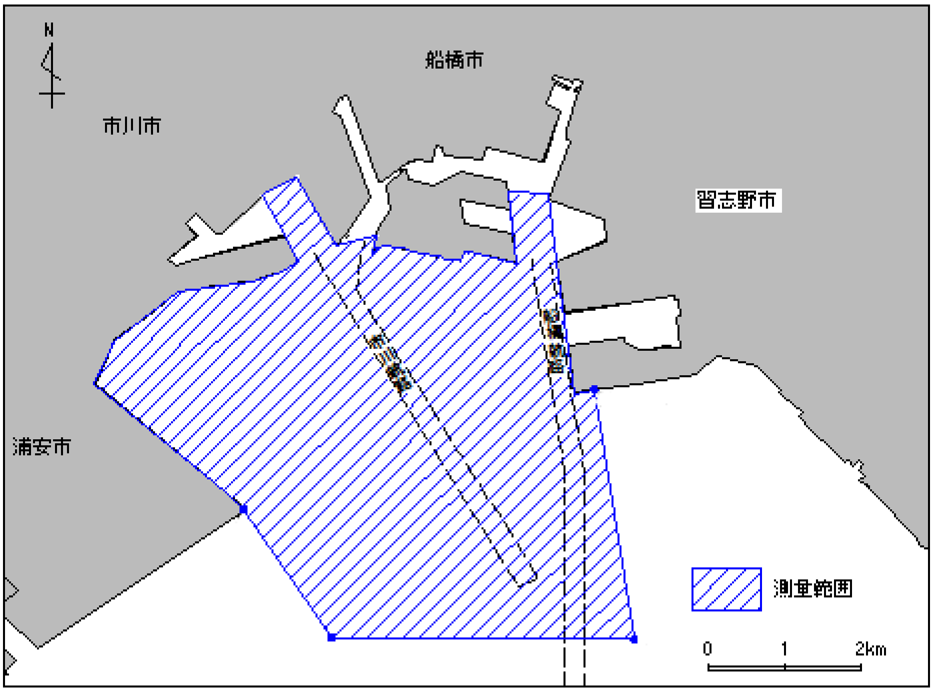
鳥類の種別飛来数

（４）調査場所

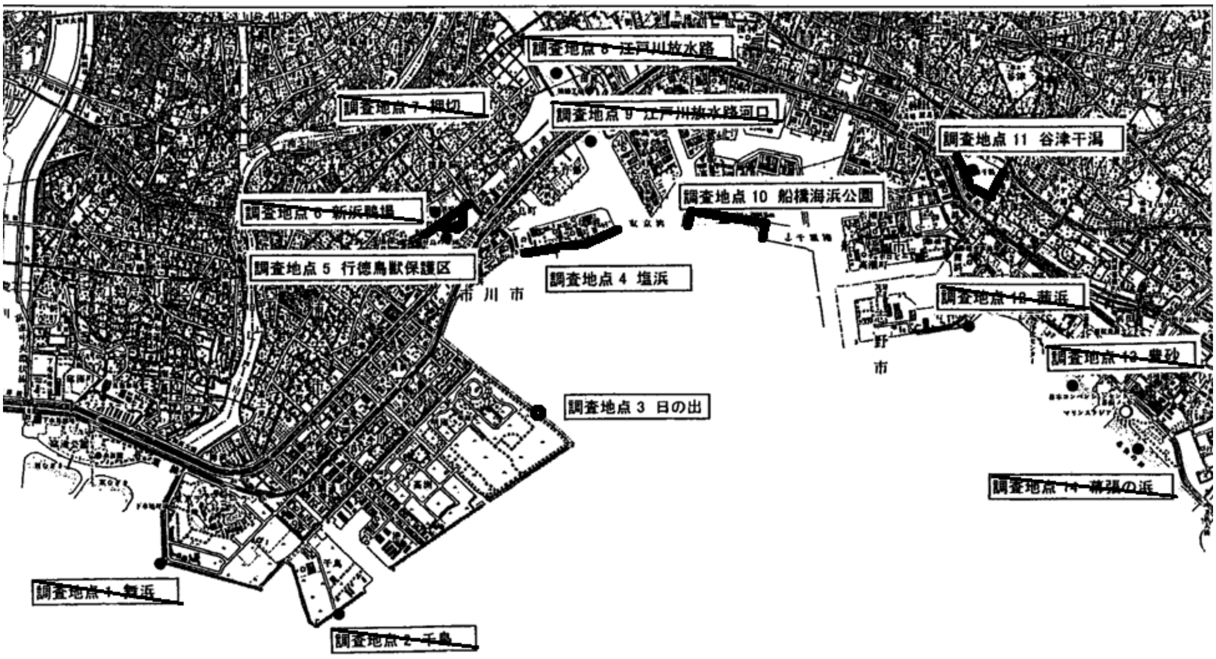
これまでの鳥類経年調査からの解析結果を考慮して、特に鳥類の利用が多く、重要と考えられる、三番瀬海域３地点（船橋海浜公園、塩浜、日の出）、行徳湿地及び谷津干潟（別図参照）

（５）調査期間

平成２４年４月～２５年３月（月２回調査）



平成２４年度三番瀬深浅測量業務区域図



平成２４年度三番瀬鳥類経年調査に関する調査業務位置図